

一筆啓上

# 作左通信



第一〇五号 令和二年十一月十五日(日) 発行

「コロナ禍に思う」 六ツ美西部小学校 教頭 池田 芳浩

天空を貫くと見間違う幹は重厚。縦横無尽に張り巡らされた枝が差し詰め上空を覆い尽くす様は圧巻と言わざるを得ない。

此処は、岡崎市東部の山間。樹齢千年以上と言われる大杉に漸く出会えた。愛知県天然記念物に指定される銘木である。巨大なうねりと錯覚する程の太い根が鮮烈な存在を有する。木洩れ日が差し込み、濃淡明暗な緑色を放つ葉が、一層、息吹を吹き込む。凝視すると安堵感も増す。

新型コロナウイルスの感染拡大がとどまることを知らず、

世界を震撼させている状況の中  
学校現場では、子供たちへの教育活動を保障していこうと教職員が一丸となり力を注いでいる。



目に見えないウイルスから身を守るために、学校運営でも感染症対策は必須。教育課程の再編成、学校行事の変更も余儀なくされた。幸いにも、子供たちの学ぶ意欲に支えられ、学習履修及び授業進度の著しい遅延はなく、臨時休校もありながら、「学び」の根幹は何とか維持できている。「感謝」の一言である。

私も現在の立場を拝命しながら、国語の授業を担当する機会に恵まれた。言葉の働きや意味を教えている。書く活動が中心であるが、言葉のもつ可能性や役割を伝え、教壇に立つ喜びを噛みしめている所である。

歴史と伝統のある貴団体が主催する本会も、「俳句」や「短歌」を通して、言葉を吟味し磨きをかける活動を脈々と続けている。誠に敬意を表する所存である。

「教育界の国宝」と言わしめた

東井義雄氏も、子供たちに根を養うことの大切さを説き続けた偉人である。その言葉に、「根を養えば樹は自ら育つ」がある。基礎となる力を培い、学びに向かう態度や心構えがいかに重要であるかと問うている。心に腑に落ちた言葉である。子供の成長を願う一人として、コロナ禍でも教育活動の根は養い続けねばなるまい。「言葉を大切にすることは心が豊かになる」と感じているのは私だけではないだろう。

今後も言葉の意義や価値を踏まえ、自身も研鑽に努めていこう。切磋し錬磨することで己事究明を目指す心を大切にしたい。



作左の会

検索